



## 『城北校区公民館の建設を』

城北地区社会福祉協議会 会長 細谷 達 則

平成4年7月に、市長および市議会に、建設方の請願をいたしました。それから2年半の歳月が過ぎました。その間、市議会におきまして「建設の必要を認め」採決されました。しかし用地の問題が、一番大きなネックとなって、現在まで、のびのびになってきました。地区公民館は、その地区の拠点として、社会教育の振興に役立つことは勿論、地域住民の自治活動、保健体育活動と、日常生活に、深くかかわる活動をする場所だと思えます。

ところが、それに加えて、城北地区社会福祉協議会が発足するにおよび、ますますその必要性が増してきました。すでに公民館のある地域での活動状況を見る時、専従職員の活躍等、立派な成果をあげています。城北校区として取組み方は、平成6年10月に、各地区、各団体からの御推薦によりまして、20名の方々に『城北校区公民館設置推進委員会』を結成。27日に、第1回目の委員会を開催いたしました。

役員構成と、今後の運動の進め方について協議し、第一の大きな問題である『用地』については次のような意見にまとまりました。

委員の皆様で、適当と思える用地を持ち寄り、検討の上、城北校区住民一同の意思であるとした上で、市に要望していこう……。現在までの用地の候補地として、三つの方法が考えられています。推進委員会で、充分討議する予定にしていますので、住民の声を反映させる為にも、御意見を委員の耳に入れて下さい。

- (1) 旧税務署の跡地（国有地）の払い下げ。
- (2) 御供所町児童公園の転用（公園は別のところに造る）
- (3) 東汐入川の埋立て造成地（何年先になるか解りません）

### 最近設置された公民館の概要

公民館名	敷地面積	建築面積	竣工年月日
城南公民館	2,294㎡	682㎡	平成6年3月25日
川西公民館	1,961㎡	496㎡	昭和63年1月31日

# 福祉部会について

福祉部会長 桑 橋 憲 一

みなさん、こんにちわ。お寒うございます。

きびしい寒さの日々が続いておりますが、お変わりございませんか。

お見舞申し上げます。

さて、皆様には、昨平成6年3月29日に城北地区社会福祉協議会「地区社協」が設立され、同年4月1日より活動を行っておりますこと、また、「地区社協」は、総務部会、福祉部会、環境保健部会から成立していることは、既にご承知の通りでございます。

(「地区社協」の必要性については、この「ともしび」創刊号に、細谷地区社協会長が、述べておられます。)

また「地区社協」設立に先立って、福祉推進委員制度が創設され、市長より委嘱を受けた福祉推進委員が、それぞれの地区において活動していることもご案内の通りでございます。

今日は私の所属しています「福祉部会」について述べてみたいと思います。

先ず、福祉部会は、11名の部会員を以って構成されております。

民生委員3名、福祉ママ1名、更生保護婦人会1名、民生委員OB1名、単位自治会長3名、消防分団1名、母子福祉1名となっておりますが、老人会の役員等、其の他の役職を兼ねている方もいらっしゃいます。役員として、部会長1名、副部会長2名で運営しております。

部会行事としましては、

- 1 毎月満70才以上の在宅独居老人宅を友愛訪問。
- 1 満70才以上の在宅独居老人の方々へ、誕生月にお祝いとして花鉢プレゼント。

この時には、城北小学校校長先生のご厚意によりまして、児童が手紙を書いて、民生委員、福祉ママ、または福祉推進委員の方達と共に対象者を訪問して、お祝いの言葉を述べています。

- 1 給食サービスでは、満70才以上の在宅独居老人に対し、希望者の方々に昼食として、お弁当を配食致しております。内容は、お寿司、幕の内弁当と、目先を変えるようにしております。この場合自己負担金として100円をいただき、部会より400円乃至600円位を補助しております。

平成6年度は、平成6年5月・11月・平成7年2月(予定)の3回実施。

- 1 年間3回乃至4回の特別友愛訪問。

満70才以上の在宅独居老人の方々に、カツオパック・おはぎ・お菓子等を持参

して、慰問しております。

- 1 独居老人実態調査は、年2回（7月・翌年2月）満65才以上の在宅の方々に対し実施しております。

この調査が、行事の基となりますので、民生委員が調査にお伺い致しました時は、ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

- 1 寝たきり老人訪問・ニーズ調査・実態調査、これは福祉ママが主体となって行っております。

- 1 敬老会・行事への協力・地区最高齢者の訪問等を行っております。

- 1 母子・父子・身障者のニーズ調査・実態調査等。

- 1 福祉推進委員・福祉部会員の研修。

平成6年度は、福祉推進委員は、飯野町の特別養護老人ホーム「珠光園」を、福祉部会員は、坂出市府中町の身体障害者の施設であります「瀬戸療護園」を民生委員・福祉ママと合同して訪問見学しました。

担当者からの説明を聞き、施設の見学をさせていただきました。特に、「瀬戸療護園」では重複障害をもった入所者の方々もおられ、介助される方々のご苦勞の程もしのばれました。

どちらの施設も設備は素晴らしく、預けられましたご家族の方もご安心されていることと思います。

- 1 地域住民とのふれあい。

現在のところでは、校区が一つになっての行事は行っておりません。各町毎の盆踊り大会・夏まつりの夕べ・運動会等が行われております。将来はこれらを一つにした行事に発展させていきたいものと思っております。皆様方の大いなるご協力なくしては実施出来ません。その節には、よろしくお願い申し上げます。

- 1 各種団体との提携協力・行事への参加。

防火週間にちなみ、消防第一分団の方々が、民生委員らと共に、火災予防パンフレット、ティッシュペーパー等を持参して、満70才以上の独居老人宅を訪問。ガス器具等の点検・火災予防の心得等について話していただきました。

- 1 福祉部会の開催。

適時開催して、次回行事の打合せ、意見交換等を行い、よりよい福祉活動を目指しております。

- 1 その他

となっております。

私達の活動もまだまだ十分とは云えません。

給食サービスにしましても、配食だけでなく、一堂に会しまして、お集まりいただいた方々のご意見も聞いたり、レクリエーションを共に楽しんだりしたいという計画ももっておりますが、種々の隘路があり、早急な実現は難かしいかもわかりませ

んが、皆それぞれ意見を持ちよって是非実施したいと思っております。

現在は満70才以上の方々に対し、いろんな施策が実施されておりますが、満65才以上、70才未満の方々に対しましても、たとえ年1回でも何かをと考えております。

先日の新聞によりますと、厚生省が新年度より5ヶ年（1995～1999年度）計画による、高齢者保健福祉計画（新ゴールドプラン）が打ち出されております。

丸亀市におきましても、市民の意識調査等をもとに、「ゆ～あい・は～もにいたウンまるがめ」を計画の基本理念として、福祉向上のために取り組んでおります。

私達も地域福祉向上のため、尚一層努力邁進していく覚悟でおります。何卒ご協力・ご指導の程お願い申し上げます。

最後に 主任児童委員制度について

本制度は、「健やかに子供を生み育てる環境づくり」が社会全体の大きな課題となっているなかで、地域において児童・妊産婦の福祉に関する相談・援助活動を行うのを趣旨として、平成6年1月1日付を以って、各学校区毎に1名が、厚生大臣の委嘱を受け、関係機関と児童委員との連絡・調整を行い、また区域を担当する児童委員と一体となって活動を展開することにより、児童委員活動の推進を図るものであります。

原則として55才未満で、女性が望ましいとなっております。

城北校区は、土居町2丁目13-18 山崎裕子さんが就任しておられますので、児童・妊産婦のことでご相談がありましたら、同氏までご連絡下さい。（電話24-1490）

私達が取扱います調査・ご相談に関しましては、個人のプライバシーは、固く守られていることは、云うまでもございませぬので、安心してご相談下さい。

以上、とりとめもない事を、長々と申し述べましたが、今後共よろしく願い申し上げます。

## 城北小学校児童の交流

3年前から、6年生が一人暮らしのお年寄の誕生日の月に手紙と花を持って訪問している。城北校区は、高齢の上一人暮らしをしているお年寄が多く、孫のような6年生の訪問を心待ちにしている方もあると聞いている。

町で偶然会ったとき、おこずかいをもらったり、お菓子をもらったりした子どももいたぐらい、お年寄にとっては大変うれしい贈り物なのであろう。これからも心のオアシスともいえる手紙のプレゼントを続けていきたい。

# おばあさんとの心のふれ合い

6年 泉 幸 恵

「さあ、行きましょう。」

おじさんに言われて出発した。私は今から、一人暮らしのおばあさんの家に手紙をわたしに行くのだ。学校を出て、10分ぐらい歩くとおばあさんの家の前に着いた。自分の家の近くに住んでいる人に手紙をわたすのだが、まさか、こんな近くに、一人暮らしのおばあさんが住んでいたなんて、思ってもみなかった。

家の前まで来ると、何だか少しドキドキしてきた。私の書いた手紙、喜んで受け取ってくれるだろうか。ガラッ。大きな音がし、戸が開いて、おばあさんが出てきた。私は、さっとお花と手紙をわたした。おばあさんは、にこにこ笑いながら、

「ありがとう。」

と言ってくれた。私は、それを見て、おばあさんが喜んでくれたように思い、ほっと安心した。それから、何日かして、おばあさんは、わざわざ私に返事を書いて、持ってきてくれた。手紙をすぐ読んでみようと思ったどんなことが書いているのかが楽しみで胸がわくわくしてきた。

私は、この前の手紙に、楽しみにしていた修学旅行のことを書いたり、おばあさんにいろいろ質問したり、そういうことを書いていた。おばあさんは、その質問にちゃんと書いてくれていた。私は、返事を書いてくれて、とってもうれしい気持ちになった。おばあさんは、手がふるえてうまくかけないと書いているのに、それでも、たくさん返事をくれていた。何だか心が温まった気がした。

お年よりの人に、手紙を書くと、お年よりの人たちもいい気分させられるし、自分たちもいい気分になれる。だから、今後も、みんなにやってもらいたいと思った。

此の間はお花をありがとう。

あなたのおたづねにおこたへします。

私は城乾小学校でした。私の頃にも修学旅行は有りました。1組に4、50人も居りましたが、行く人が少なかったので、おながれになって行きませんでした。たくさんたのしんできて下さいね。

京都、奈良へは、60才位の時に行了きましたよ。いい所です。先生のおっしゃる事をよく聞いてたのしい思い出をつくって下さいね。

今は子供達にまもられて北海道からおきなは、日本国中へいっています。

おかげでたのしく日を送って居ります。

ありがとう。

こういしょうで手がふるえるので御免ね。

大岩まつ

(原文の儘)

泉 幸恵様



# 敬老会について

環境保健部会長 尾崎千恵子

9月15日を、「敬老の日」として祝日に制定されています。婦人会活動の重要な行事として毎年行われています。丸亀市では75才以上を対象者とし、現在大正8年生れ以前の方です。過去昭和60年には522名であったのが、平成6年には720名になっています。高齢化の進む中で、城北校区は環境に恵まれ、海に面している町は最も多く長命しています。南には丸亀城を毎日眺め、東は土器川、北は瀬戸内海に面し、中津万象園になっている所では丸亀市民の海水浴場として賑わったものです。現在敬老者は、戦中には戦地に、終戦後は敗戦という悲しい目に会いました。

幸いにして丸亀は空襲には逃れましたが、食もなく大切な男の方は戦死され、現在の若い人には想像も出来ない状態でした。

その時代を強く、たくましく今日の社会にまで豊かな生活が出来るように社会づくりをして下さった方々ばかりです。その方々を年に一度ですが、敬老の日に敬老会の催しをし招待して居ります。まだ9月15日は暑くて、十分な会にする事が出来ませんが、幼稚園、保育所の園児、城北小学校の代表者の生徒等で真心こもった可愛いコトバお遊戯などをし「おじいさん、おばあさん、ありがとうございます」とのコトバには一同感無量です。小学生の作文、思いのままに書かれて発表してくれます。一同一生懸命、敬老の行事が行われます。

95才以上、90才、88才の米寿、80才以上の御夫婦には特別のお祝品を差し上げます。全体にはお祝品と、80才以上には1万円、75才以上79才までは5千円のお祝金が出て居ります。皆様大変およろこびです。当日市長様はじめ御来賓の方々と共にお祝いをして、又来年もお元気で出席して下さいとお約束をし散会します。敬老者の代表者より、市長様、婦人会に対して謝辞をのべられます。

今私達は敬老者の方々の御苦勞に対し、このような時代にまで発展する事は、想像したでしょうか。人間には強い無限の力が秘められて居り、そのすばらしい叡智には心の持ちようにより努力し、その力が発揮出来るものだと思います。今は少子代、核家族代の時代で和の心がうすく、個人主義の時代になっていますが、幸いに地区社協が設立しました。元の本来の姿に返して、次代の方々と連携を密にし、愉快な明るい社会づくりをします。

私達が昭和45年に発足し、恩賜財団母子愛育会の活動はその時から始められています。感謝の心、与える人、与えられる人、愛のコトバです。敬老という日を大切に、その精神でいつまでもいつまでも続けたいものです。

みな様の健康を祝して終わります。

(原文の儘)

# 老人クラブに新しいパワーを

総務部会長 村 上 一 夫

1995年の新しい年を迎えて、各界の皆様には益々お元気にて活躍されていることと、ご推察申し上げます。

老人クラブは昭和20年代に単位各クラブの組織にはじまり、昭和37年に全国組織が結成され、現在会員869万人の組織です。

その活動は、地域ごとの多様な自主活動を基盤として、健康をすすめる運動、生きがいを中心としたものや、各種のリクレーション等、会員自身の楽しみを中心としたものから、環境美化（社会奉仕）や友愛活動など巾広い取り組みをしてまいりました。

しかし社会の変化は急速に進み、高齢者は年ごとに増加し、60才以上の人口は、平成6年の2,489万人から、6年後の2000年には、2,935万人に増えると予想されています。

なかでもひとり暮らしや、高齢者世帯の大巾な増加が見込まれているのが現状です。

また特にこれからは、元気な高齢者が目立つようになり、社会一般の高齢者は、援護の対象から社会の活力としての高齢者パワーに、大きな期待が寄せられるようになってまいりました。

さらに長寿化の進展や、生活水準の向上のなかで、高齢者は、積極的な姿勢の生活様式（ライフスタイル）をめざすようになり、価値意識が多様化しています。

一方、高齢者の年齢層も拡大し、社会活動にも一層の多様性が見られてまいりました。

そこで、これらの変化をふまえた、老人クラブ活動の新たな展開が求められています。

以上の見地から、今後の老人クラブ活動も、発想の転換をはかり、時代の要請に応じて、地域の担い手としての活動を期待されるようになってまいりました。そのためには、今ほど若い世代の活動家の参加を、切望されているときはありません。呼びかけて下さい、新しい力の結集を。手をつなぎ合ってください、福祉の担い手の輪を。そして発揮して下さい、新しいパワーを。

# 交通戦争の最前線で

丸亀警察署交通課長 藤 沢 秀 夫

警察の仕事は、個人の保護と公共の安全の維持を対象としています。その中で、交通課の行っているのは交通事故、とりわけ死亡事故の抑止を最重点として取り組んでいます。

ところが平成6年中、丸亀市では15人の方が交通事故で亡くなりました。死者の内訳は65歳以上の高齢者の方が6人、16～24歳の若者が6人とこの年齢層で80%を占めています。

高齢者の方は、元気で活動的な人達が自転車で行動中右折する際、後続の自動車に注意を払っていなかったため一命を落とした事故ばかりでした。

若者の交通事故は自動車運転中に、飲酒したり、速度の出し過ぎといった無謀運転が原因となり、カーブで工作物に突っ込んだり、センターオーバーで対向車と正面衝突する自爆型のものです。

交通事故のうち死亡事故として計上されるものは、発生から24時間以内に亡くなったもので、これ以外に丸亀市では4人の方が亡くなっています。自動車との衝突による遺体の損傷は、主として頭部が中心であって、両親など遺族に確認を願うときに余りにも刺激的なものばかりです。このような悲劇を自分の家族に味わわせたくないと思えるのが、交通課長以下交通事故を担当するものだけであっては、事故の多発に歯止めをかけられるものではありません。我々担当者が感じたものを市民の多くの方に知って戴き、自分の家族を悲劇の当事者とさせない危機意識を持って貰うことが交通死亡事故抑止の唯一の方策と信じて、今年もあらゆる機会に交通教室という形で訴えていきたいと考えております。



## 福祉推進委員名簿

昨年11月26日開催された第26回丸亀市社会福祉大会の席上、当校区で123名の方々が福祉推進委員を委嘱されました。新しく委嘱された方々は次のとおりです。なお、112名の方々については「ともしび」創刊号の付録でお知らせしたとおりで、引き続き2か年間お世話願うことになっております。

氏名	住所	電話	氏名	住所	電話
森 千代子	御供所町1-9-3	23-2737	須藤 幸治	風袋町161	22-5585
廣田 香	御供所町2-8-8	24-4150	秋山 達雄	風袋町41	22-4678
高木 寛治	御供所町2-13-2	22-2551	内海トミ子	風袋町26	24-6304
門田 勝子	北平山町1-7-6	23-4462	山地 明	通町153	22-7193
山地 好子	瓦町25-3	24-0073	安藤 久子	城東町2-2-31	24-5077
竹内 良夫	風袋町186-1	22-4127			